

循環型農業へ貢献

化肥・農薬の削減進む

JAふくおか八女
JA全農ふくれん



販売される「e-green」

中心に農家へ拡大している。従来品より2割安く、化学肥料削減と併せて農家のコスト削減につながっている。

JAは普通作物でも、従来の化学肥料から転換し、大豆で普及が拡大している。

営農指導員は「土壌

「全農ふくれん」JAふくおか八女とJA全農ふくれんは、農業の環境負荷低減を旨とする農水省の「みどりの食料システム戦略」に基づき、化学農薬と化学肥料の削減を進めている。この化学農薬と化学肥料の削減を並行する取り組みは、全国的にも少ないという。

化学農薬の削減では、脱脂米ぬかと大麦濃縮アミノ酸発酵液を混合した「ソイルファイン」による土壌還元消毒法へ転換が進む。イチゴ「あまおう」、ナス、トマトの施設園芸作物30品へ普及が拡大。原料には、県産の

米や大麦も使う。地域資源を活用した循環型農業へ貢献している。化学肥料の削減では、福岡市の和白水処理センターで回収した再生りん「ふくまっふneo」とJAふくおか八女の豚糞堆肥を配合したペレット肥料

「くまもと」国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラム in九州」が20日、益城町のグランメッセ熊本で開催される。農水省の補助事業（国内肥料資源利用拡大対策事業）を活用し、東京のコンサルティング会社が開く。

肥料資源の利用拡大へ 熊本で20日フォーラム

ムではJA菊池やJA鹿児島県経済連、佐賀市上下水道局などの先進的な取り組みを紹介する。農研機構の担当者が、混合堆肥複合肥料の事例などを基調講演する。ブース出展やマッチングのための交流会も開く。

問い合わせは事務局のリベルタス、コンサルティング、☎03（62662）1493。詳細は九州農政局のホームページでも紹介している。

消毒で使っていた化学農薬からの転換で、環境への負荷軽減と、農家の体への負担が軽減できる。病害抑制効果も高く、普及を拡大したい。化学肥料の削減では、高騰で農家のコストも大幅に上がって

いる。国内肥料資源の活用でコスト削減と、土壌の環境負荷軽減につなげたい」と話す。全農ふくれんは「取り組みを通じて、みどりの食料システム戦略が目指す化学農薬と化学肥料の削減を検証し、生産農家のコスト削減と持続可能な農業へつなげたい」と語る。